



市民参加の新たな森林づくり・春（登米市津山町横山地区）

「登米の森林から」

森林・林業の好循環による地域の健全な森林づくりを目指して！



登米市長 布施孝尚

▶ 新年明けましておめでとうございます。皆様には、希望に満ち溢れた輝かしい新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

▶ さて、森林・林業につきましては、引き続き厳しい経営環境にありますが、森林は、水資源のかん養、土砂災害の防止や自然環境の保全、地球温暖化の防止など市民生活に欠かすことのできない多面的機能を有しており、現代に生きる私たちが適切に整備し、次の世代へつないでいく必要があります。このため、本市では、平成 28 年度におきましても、林業担い手の育成を推進するとともに、木材需要の拡大による地域林業の活性化を図るため、市内産木材を使用した住宅の建築

を支援する「地域材需要拡大支援事業」や身近な里山・広葉樹林の整備を支援する「里山再生事業」等様々な事業を継続して実施してまいります。

▶ 販売を開始して3年が経過したオフセット・クレジット（J-V E R）制度による二酸化炭素吸収量販売事業につきましては、活発な取引が行われており、今後もカーボン・オフセットに取り組む企業等と積極的に取引を行い、森林・林業の新しい価値であるクレジットを活用し、持続的な森林整備を進めてまいります。

▶ また、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故により、現在も露地栽培原木しいたけが出荷制限を受けておりますが、これまで4名の生産者が生産を再開しております。しかし、いまだ多くの生産者が生産を休止している状況であり、生産再開に向け、今後も安全な原木の確保や機械施設の整備等に対する支援を継続してまいります。

▶ 平成 28 年度から国民の祝日として新たに8月 11 日が、『山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する「山の日」』に定められます。「山の恩恵」とは、森林の持つ多面的機能であり、これを持続的に発揮させるため、これからも積極的に森林の健全な育成、林業の振興に努めてまいりますので、皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

も り 登米の森林 から 第4号

＜共同執筆・編集＞

宮城県登米地域事務所林業振興部

登米市産業経済部農林政策課

登米町森林組合

東和町森林組合

津山町森林組合

CONTENTS

◆ 巻頭言	 1
◆ 森林づくりの技術	 2
◆ 森林づくりへの支援	 2
◆ シリーズ・インタビュー	 3
ヤマで働く！	
◆ ハイ！こちら森林組合	 4
◆ 登米市NOW！	 5
◆ トピックス	 6
◆ ふるさとの自然案内	 7
◆ コラム	 8



まさに本格的な利用の時期を迎えた登米市のスギ

シリーズ・ 森林づくりの技術

その④ 伐らないと太りません。(胸高断面面積に関して)

<混み具合と太り具合>

年数がたっても、間伐しないで混み合っている人工林は幹が細いままで。一部に若干太い木があっても、その周りは極端に細かったり、枯れたりしています。樹冠（枝が張る空間）と肥大生長、つまり混み具合と木の太り具合は大きく関係しています。

<胸高断面面積>

立木の太さは胸の高さ（1.2m）で測ります（胸高直径）。この高さの断面面積（輪切りにしたときの円の面積）を胸高断面面積といいます。1ヘクタール当たり成立する立木の胸高断面面積を全て合計すると、概ね 80m² 以上にはならないことが知られています。平均胸高直径が 30cm であれば 1ha に 1,100 本程度成立するのが限界です。

<どうやって測る>

胸高直径は比較的簡単に測れるので、一定の本数を測って平均値を出します。面積当たりの本数を簡単に測る方法としては、4m程度の釣竿を林内に持ち込んで円を描き（円の面積は約 50m²）、その中の本数を数えることで、面積あたりの本数を計算することができます。何力所かでやって平均すると良いでしょう。

<どこまで伐る>

80m²/ha は限界値なので、胸高断面面積合計は 50m²/ha ぐらいを目標にします。平均胸高直径 30cm の林分であれば、胸高断面面積合計を 50m²/ha ぐらいにするためには、1ヘクタール当たり約 700 本（50m² の円であれば 3.5 本）に仕立てていく必要があります。



<混み合った人工林>

樹木の生長には太陽の光が必要です。適切な時期に間伐を行わないと森林が混み合い、樹木が光を求め上にだけ生長し、幹はあまり太りません。



筆者が使っているプロット用釣竿(4m)
中古で十分、伸縮式が携帯に便利です。

シリーズ・ 森林づくりへの支援

その③ 間伐支援の考え方

◆森林施業集約化は何のため

森林施業を行う場合、複数の所有者の森林がまとまっていた方が、作業道の合理的な配置や、高性能林業機械による効率的な施業の実施によって、木材生産コストの低減が図られ、収益性の向上につながります。

森林組合では、このような森林の面的な集約を行うことにより、その施業の実施に必要な経費や木材の販売額などを提示しています。

補助金が活用できる場合もありますので、効果的に活用して、持続的な森林経営を進めていきましょう。



出典：林野庁

◆収入間伐（利用間伐）

せっかく育てた木ですから、伐ったら搬出して利用したいです。国の補助事業を使うためには、原則として5ha以上の森林のまとまりが必要で、1ha当たり10m³（または20m³以上）以上の材積を出す必要があります。県の事業でも、原則としてまとまった区域を間伐する場合に支援の対象になります。

◆保育間伐（伐り捨て間伐）

林齢が若いとどうしても、搬出すると採算割れになる場合があります。立てたままだと混み合ってしまうので、伐り倒すだけの作業も当然必要です。これが保育間伐です。こうした伐り倒すだけの経費にも、支援はあります。

※詳細は、森林組合または県(登米地域事務所林業振興部)、登米市(農林政策課)へお問い合わせください。

シリーズ・インタビュー ヤマで働く！

現在、植林や間伐など森林の造成や整備に従事する人々は県内でわずか 1,400 人ほどですが、こうした方々の活躍が、本県の全国有数の木材生産や多様な森林機能の発揮を支えています。このコーナーでは、そのような「普段はあまりお目にかかれないけれど、実は私たちの豊かで安全・安心な生活を支えている」ヤマのプロフェッショナル達をシリーズで紹介しています。

林業の現場から（第4回）

登米町森林組合 専門指導員
そらし すえ なが しげ のぶ
空師 末永重信さん

今回は、林業の中でも「空師」という特殊な仕事をなさっている末永さん（68歳）を取材しました。空師とは、高い木に身一つで登ってチェーンソーなどを扱い、樹形を整えたり、木の高さを切り詰める職人さんです。周囲に家屋などがあると、木を横倒しにしたり、枝を落としたりすることができないため、空師の出番が必要となります。

末永さんは、その優れた技を極め、他の模範となっている達人として、平成20年度に（公社）国土緑化推進機構から「全国森の名手・名人」に認定されています。

また、多年にわたり地域林業の振興に寄与した功績が認められ、平成27年文化の日表彰において、宮城県産産業功労者として表彰されました。

平成26年に定年を迎えた後も、継続して通算42年間登米町森林組合に在籍し、現在は専門指導員として若手の育成にあたられています。

「古い思いをした経験は何度もある。でも、怖いと思ったらだめだね。」

取材に伺った際は16～7mほどもある屋敷林のモミの枝を空かし、樹形を整える作業を行っていました。

今回は高所作業車を使っただけの作業でしたが、民家の近くなど作業車が入れない場所では、足に爪のついた器具（写真）と、安全帯「胴綱」を装着しただけで、どんなに高い木でも登っていかねばなりません。これまでに40m近い木に登り作業を行ったこともあるそうです。



空師は命綱一本で木に登り、枝の様子を見ながら伐採していきます。



足につける器具。内側に爪がついており、木にひっかけて登っていきます。

「上の人と下の人で呼吸を合わせるのが大事。だから上から大きな声で指示を出すんだ。怒ってるわけじゃないんだけどなあ。」

仕事の時は、木に登る人と下で作業をする人の呼吸が合わなければ、怪我につながる危険性があるため、大きな声で指示を出します。ただ、若手に教えるときにはそれが怒っているように見えるようで…。苦笑いしながらそうおっしゃっていました。

「空師は他ではできない仕事をやってるんだね。」

空師は、庭師や土木建築業者等が扱えないような、危険で難しい作業を任せられます。依頼の数は登米市ほか近隣の市町村から年間80件ほどで、減ることはないそうです。



高所作業車からモミの木を剪定していました。（登米市豊里町民家）



少しずつ若手の方々だけに任せる仕事を増やしているそうです。（右が末永さん）

高度な技術と精神力が要求される仕事は、40年近く空師を続けてきた末永さんでも、まだ多くの学ぶべきことがあるそうです。今回取材に伺った際は、20代と30代の若手作業員の方が末永さんの指導の下、苦戦しながらも技術を磨いているところでした。

空師という職業はあまり広く知られてはいませんが、大変素晴らしい職業だと思います。末永さんのように高い技術を持った職人さんが地域に育ってくれるよう、健康と怪我には注意されています。作業中にもかかわらず早く取材にご協力いただき、ありがとうございました。

（インタビュー）
県登米地域事務所 技師 大内 環

林業や森林組合への就業については、最寄りの森林組合、または（公財）宮城県林業活性化基金（県森林組合連合会内）電話 022-217-4307 までお問い合わせください。

ハイ！こちら森林組合！

森林所有者の協同組合である森林組合は、森林（もり）づくりの主要な担い手として、地域の森林が適切に整備・管理されるよう努めています。特に、収穫時期を迎えた木材資源を有効に活用しつつ山林の価値を高める「利用間伐」や「耐久性のある作業道開設」等を推進しており、これらを効率的な作業システムにより低コストで行う「集約化施業」を、県や市と連携して全力で展開しているところです。

このコーナーでは、登米市内の森林・林業地域において、森林整備のみならず様々な活動を行っている3つの森林組合の情報やお知らせをお届けします。森林・林業・みどりに関するお問い合わせは、是非森林組合へ！

登米町森林組合

小中学校に木のぬくもりを ～コナラを活用した学童用機の普及～



宮城県グリーン製品
平成 27 年 4 月 1 日認定
天板寸法/
横 650mm×縦 450mm×厚さ 16mm

登米町森林組合では「人づくり・森づくり・森林資源の有効活用」を掲げて事業を進めています。今号では「森林資源の有効活用」に関する取組を紹介します。登米町の森林の約3割は広葉樹林です。この広葉樹林では近年害虫によるナラ枯れ被害が拡大しつつあります。さらに東日本大震災に伴う放射能問題で樹皮が汚染されてしまい、コナラはしいたけ原木として使えなくなってし

まいしました。このような背景から、広葉樹林の再生が急務となっています。

そこで市内の家具製作会社と自治体の協力を頂き、コナラを活用した学童用機を開発しました。この机は学童用機の天板をコナラ材で製作したもので、簡単に交換ができ、メンテナンス性が高いことが特徴です。登米市では今後4年間で市内の全小中学校にこの学童用機が導入される計画になっています。

登米市の森林資源を有効に活用することで広葉樹林が再生し、さらに地元企業の育成や、小中学校での森林環境教育のきっかけにもつながります。このような地域を元気にする取組を最近では「ローカルファースト」といい、今後も森を起点とした取組を進めていきます。



東和町森林組合

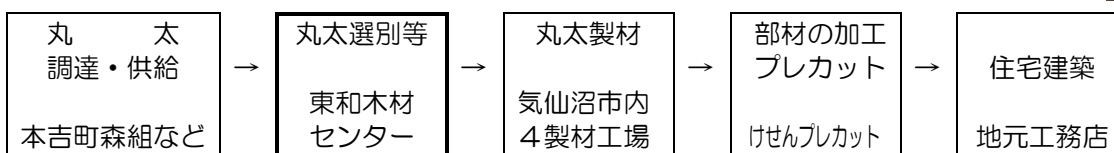
震災復興加速へ！『東和木材センター』の活用

震災発生からこの3月で5年となります。隣接する気仙沼市では高台移転の造成工事が完了し、市内で建設される災害公営住宅のうち約9百棟の木造住宅は、平成29年度末までの完成引き渡しを目指し順次建設が進み、去年と今年が建設のピークと見込まれます。復興がようやく実感できる状況になりつつあると感じています。

東和木材センターは、登米地域の丸太だけでなく、センター開設以来長く気仙沼地域、特に本吉町森林組合の丸太を扱い、現在でも全体の約45%（割合は以前とほぼ同じ）が気仙沼地域の丸太です。入荷後の丸太は、石巻や大崎方面の需要を支えています。

復興向け丸太需要の急増に対し、各森林組合とも林産事業を拡大し供給量を増やしているところですが、当組合では、沿岸部の地元森林組合などが丸太の仮置き場が無いなどの理由で、山土場から製材工場へ直送できない分の丸太を一旦センターで選別・保管する体制を敷き、復興木材の供給を支えています。

径級管理された丸太は再びトラックに積み込まれ、気仙沼市内の製材工場に運ばれます。今後もセンターの機能をフルに活用し、復興を進めてまいります。



左：センターに運ばれてきた気仙沼地域の丸太
右：丸太は径級ごとに選別され、再び気仙沼市内の製材工場へ運ばれていきます。

津山町森林組合

製材用丸太の流通拠点『津山木材センター』

旧津山町は、気候風土や土壌が杉の生育に適しているため、森林面積の76%が杉を中心とした人工林です。年々成熟度が増し、この豊富な資源を利用した木材製造業が発達し、県内でも有数の製材加工（柱材、間柱、母屋材等）の産地として発展してきました。現在は製材工場5社で県全体の製材品出荷量の約4割を生産しています。

「津山木材センター」は、昭和59年10月に宮城県森林組合連合会が開設した丸太市場で、平成16年からは当組合と登米町森林組合、南三陸森林組合からなる「津山木材センター業務管理共同事業組合」が運営しています。当組合をはじめ近隣の森林組合の丸太を集荷し、長さや径級を揃え、月一度の市日ではほぼ全量を入札にかけ販売します。入札参加者は通常7～10者程度、地元製材工場をはじめ、石巻や大崎地域からの参加があります。



「木の家は第2の森林」

木は大気中から二酸化炭素を取り込みながら生長し、伐採された後も住宅等として炭素を固定し続けます。木材利用は地球温暖化防止につながります。

流通コスト削減のため、近年は流通市場を通さない、いわゆる「市場外流通」が農林水産物の流通で増えていきます。丸太も同様で、山土場から製材工場や合板工場に直接運ばれるケースが増えており、センターでの取扱量は、平成初期の約2万m³をピークに年々減少傾向でしたが、震災後は丸太需要の増加などにより、約8千m³弱で推移しています。

この地域の高い製材用丸太の需要にしっかりと応え、地域材利用の推進や経済振興に今後も寄与するよう、丸太流通拠点として機能向上に努めていきます。

登米市 NOW !

登米市「里山再生事業」について

～里山林整備をお考えの際には、市にご相談下さい～

1 事業の目的

里山は、木炭や薪などの木材や山菜・きのこの採取など古くから地域の生活に密接した森林ですが、近年、木材価格の低迷や生活様式の変化などによって、里山とのつながりが薄れ、森林・里山林の荒廃が進みつつあります。

森林・里山林は、水資源の供給や生活環境の保全、災害や地球温暖化の防止など、私たち市民生活にかけがえのないものです。

登米市では、里山林を適正に保全管理し、森林機能の増進を図るため、森林所有者及び森林組合などが行う里山林再生の活動に対し、補助金を交付しています。

2 補助対象事業

里山林における広葉樹の植栽、天然更新に要する経費

3 補助金額

10a 当り2万円以内



この事業を活用して下刈りや除伐を実施した結果、里山林の管理が行き届くようになり、景観の向上にもつながりました。

トピックス

＜おしらせ＞ 【宮城ふるさとプラザ】 新商品「オフセット・クレジット付き矢羽木工品」展示販売会！

首都圏における宮城県の情報発信拠点である東京アンテナショップ「宮城ふるさとプラザ」が昨年7月にリニューアルしたのを機に、登米市では初となるイベント販売を行います。

期間中は、首都圏の皆様にも大変好評な「スギ矢羽木工品」を実際に見て触れていただくほか、前号で紹介したオフセット・クレジットの普及を図るため、焼き印やステッカーでクレジットの付加を明示した新たな矢羽商品を初披露します。

また、生産を再開した露地栽培しいたけの試食即売を行い、震災からの復興を伝えます。関係者が一つとなり登米市をPRしますので、乞うご期待下さい！

○実施時期：平成28年2月24日（水）～3月1日（火）

○展示販売品：新たなクレジット付加矢羽商品（マウスパッド、コースター、おさしみ皿等テーブルウェア、木製はがき、木製おもちゃ、BONなど）。しいたけ（生・乾燥）、マイタケ（乾燥）ほか



津山町特産品「スギ矢羽木工品」：もくもくハウス内

【宮城ふるさとプラザ】（愛称：コ・コ・みやぎ）
東京都豊島区東池袋1丁目2番2号 東池ビル1・2階
営業時間：午前11時～午後8時
交通：JR池袋駅東口から徒歩2分
・地下鉄有楽町線・丸の内線35番出口よりすぐ



第1回「ウッドデザイン賞2015（新・木づかい顕彰）」 登米管内から3作品が受賞しました！

木の良さや価値を再発見させる製品とその取組を顕彰する「ウッドデザイン賞2015」が創設されました。全国の応募総数822点から、397点がウッドデザイン賞に決定し、管内からは3作品が受賞しました。

大変おめでとうございます。

＜ライフスタイルデザイン部門＞ 木を使って暮らしの質を高めているもの

① BON 【津山木工芸品事業協同組合】



機能性と美意識
を触発する素晴らしいデザイン



【BON】
BROWN・ORANGE・NATURAL……3色の軽くて丈夫な杉の角盆。頭文字を取って「BON」。
運び盆、折敷、直接料理の盛り付け皿として……、工夫次第でいろいろに楽しめます。使わないときは3枚を重ねてすっきり収納できます。

寸法：縦230×横230×高20mm
重量：170g～190g
形状：四角
素材：杉（登米市津山町産）

【プロデューサー】
佐藤和子 デザインハウス WASABI
HP：DESIGN HOUSE WASABI

【デザインコンセプト】
受け継がれてきた日本の生活文化を「BON」で日々の食卓がほんの少し上質なものにしたい。

【受賞歴】
2014年度グッドデザイン賞受賞
（注）写真・掲載した情報は佐藤氏ご本人の承諾を得て使用しています。

＜ソーシャルデザイン部門＞ 木を使って地域や社会を活性化しているもの

② 間伐材活用学生机ナラ天板 【登米町森林組合、有限会社ウッディアベ工芸】

関連記事 ニュースレター第3号/第4号

③ 地域材・地域雇用による災害公営住宅の建設体制の構築

【登米市木造災害公営住宅建設推進協議会】

関連記事 ニュースレター第2号

ウッドデザイン賞

<https://www.wooddesign.jp/>

主催 ウッドデザイン賞運営事務局

・特定非営利活動法人

活木活木（いきいき）森ネットワーク

・公益社団法人国土緑化推進機構

・株式会社ユニバーサルデザイン総合研究所

後援 林野庁

ふるさとの自然案内

登米市の多様な自然環境を象徴する、国立公園・県自然環境保全地域・登米市自然環境保全地域……。身近にある素晴らしい自然について、職員が実際に足を運び、その感想を交えて紹介していきます。

野生鳥獣の保護と管理 – 登米市のシカ –

■ ニホンジカによる農林業被害の増加

近年、ニホンジカの生息域と生息数が拡大し、農業被害（農作物の食害、稲や畑の踏み荒らしなど）や、森林被害（枝葉の食害、樹皮の剥皮など）、車との衝突事故（夜間の飛び出しによるもの）などが顕著になり、深刻な問題になりつつあります。

ニホンジカについて県では、生息数を適正な水準に減少させ、又はその生息地を適正な範囲に縮小させるため、「第二種特定鳥獣」として位置づけ、石巻市（金華山を除く）・女川町・気仙沼市・登米市・南三陸町を区域とした管理計画を策定し、個体数の調整に取り組んでいます。

■ 登米市の状況

目撃情報の多くは山間地域ですが、米山町平筒沼周辺でも個体群が確認されています。

人里に現れる頻度は年々高まる傾向にあり、昨年7月には、市役所中田庁舎前の用水路にニホンジカが転落したこともありました。

県ではニホンジカの捕獲を進めるため、県猟友会に捕獲業務を委託し、昨年度市内では7頭（オス5頭、メス2頭）を捕獲しました。いずれも「わな」による捕獲です。



- ・用水路内に落ちてしまった雄のニホンジカ。
- ・自力での脱出は不可能。
- ・この水路では何度かあります。

『ニホンジカを目撃情報のご提供に御協力下さい』

県では、皆さまから寄せられる情報を個体数管理の参考に活用しています。最近目撃したなどの情報がある場合は、下記ホームページから情報をご提供くださるよう、ご協力をお願いします。

宮城県ホームページ（林業技術総合センター）

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/stsc/shikaform.html>

【現在、狩猟期間中です】

宮城県では狩猟期間を11月15日から翌年2月15日と定めています。この間は、法定猟法により、狩猟鳥獣の捕獲等が可能とされます。

なお、ニホンジカは、増えすぎた個体数を調整する目的から、管理計画によって特別に3月15日まで狩猟期間を延長しています。

【狩猟者の方へ】

狩猟期における事故をなくすため、狩猟ルールを守り、安全な狩猟を行いましょう。

気の緩みをなくし、緊張感を持って行動することが何よりも重要です。

下記の点を特に注意し、正しく狩猟を行いましょう。

- ① 近くに人家はありませんか？
- ② 矢先は大丈夫ですか？
- ③ 狩猟してはいけない場所ではないですか？
- ④ 狩猟鳥獣と確認出来ますか？

矢先の確認
周囲の安全を確認すること。



<豆知識>

「ニホンジカ」と「カモシカ」との違いは・・・
個体をよく観察して、違いを見てみましょう。



ニホンジカ



カモシカ（国の特別天然記念物）

- ニホンジカはシカ科、カモシカはウシ科です。
- ニホンジカの角は雄だけにあり、毎年生え替わります。カモシカは雌雄ともに角があり、一生、生え替わりません。
- シカは、全体が茶色で斑点模様があり集団での行動が多いようです。カモシカは全体が灰褐色で単独行動が多いようです。

【ぶんぶん】

コラム：目で見える登米の森林・林業

「本当にスゴイ!? 登米の森林・林業」

ー “企業による県内最大の森林づくり” 活動ー

県では、企業・団体の環境貢献や社会貢献活動としての“森林づくり”を支援するため、その活動の場を提供する森林所有者との橋渡しをしながら、取組を進めています。

「みやぎ里山コモンズ・パートナーシップの森林づくり」^(注) では、(株)登米村田製作所と米川生産森林組合の間で平成23年1月20日締結された取組が、現在最大の規模となっています。「ムラタの森」として命名された同組合の所有山林 35.65 ha では、同社員やその家族によって、植林・下刈り・間伐や山菜・きのこの生育環境を整備する活動が毎年行われています。

協定締結から5年が経ち、今後さらに協定を5年間延長する調印式が、平成28年1月22日(金)、登米市長・県地域事務所長が同席し行われたところです。

(注)「みやぎ里山コモンズ・パートナーシップの森林づくり(みやぎの里山林協働再生支援事業)」の概要

	協定数	森林面積(ha)	摘要
県全体	20	89.03	8市町
登米市	3	41.04 (46%)	KDDI(株)東北総支社 3.05ha NPO 法人森は海の恋人 2.34ha (株)登米村田製作所 35.65ha



「ムラタの森」では、毎年多くの方々の参加を得て、森林整備の活動が行われています。

森林(もり)づくりは、地域づくり・未来づくり!

本号のテーマは、「ものづくり」です。各記事をご覧いただいたとおり、森林・林業の分野においても商品開発はもちろん、人材の育成から仕事の創出までさまざまな「ものづくり」が進められています。

さて、このところいわゆる地方創生として「ひと・まち・しごと」の創出に向けた議論が盛んに行われています。その中では、「林業をはじめ農林水産業の成長産業化を図ることで地方に仕事をつくり、新しい人の流れをつくる」という方向性が打ち出されています。確かに第2号で報告したとおり、充実した森林資源を上手に利用できれば、山村や産業としての林業にはひと・しごとを生み出す大きな潜在力(ポテンシャル)があります。つまり、**森林づくりは地域づくりにつながる**のです。

一方、話は飛ぶようですが、先日パリで気候変動枠組条約締約国会議(COP21)が開催され、危機的な状況を各国が共有できるか否かに世界中が注目しました。CO2 排出削減が主要なテーマでしたが、吸収源としての森林(の整備)に対する関心は、今後日本でも一層高まっていくでしょう。そう、**森林づくりは未来づくりにもつながっている**のです。



最後に、このたび新国立競技場の建設計画が決まりました。周辺環境と調和する「杜(もり)のスタジアム」というコンセプトで、木材を多用しながら和の伝統を世界に発信するデザインは国民からの評判も良いようです。ほーら! だんだん森林づくりと未来の関係が見えてきたような気がしませんか?

【やまの子】

【市民参加の新たな森林づくり・春】

印刷に伴い排出された温室効果ガスは、宮城県内の森林整備により創出されたJ-VER クレジットによりカーボン・オフセットされています。

バックナンバー

検索

登米地域事務所 登米の森林から

登米の森林から

第4号

2016年1月

宮城県東部地方振興事務所 登米地域事務所 林業振興部

〒987-0511 登米市迫町字西佐沼 150-5

